

国語 第1学年 てがみを かこう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「てがみで しらせよう（第1学年）」の単元の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第1学年でこれまでに書いた文章（日記・絵日記・知らせる文など）と、「は・へ・を」、句読点、かぎ、「です・ます」をどこまで学習してきたか。生活科で関わった人がいるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、発言が偏る、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言と、評価規準の文末は変えない。

教科書の本文や台詞、作例の文は引用しない。教材名と人物の呼び方だけを使い、本文を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

子どもに見せる文（めあて・見直しカード・振り返り）は、1年生が読める字とことばで書く。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「てがみを かこう」 教材名「てがみで しらせよう」

2 単元の目標

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使い、敬体で書かれた文章に慣れる（(1)キ）。語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、書いた文章を読み返して、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる（B(1)ウ・エ）。知らせたいことを手紙に書いて、身近な人に進んで伝えようとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、書いた手紙を読み返し、学習の見通しをもって、知らせたいことを身近な人に手紙で伝えようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、身近な人に、うれしかったことや楽しかったことを手紙に書いて知らせる学習である。学習指導要領第1学年及び第2学年のB(2)イ「日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動」に当たる。手紙は読む相手をはっきりしているので、1年生でも「この書き方で相手に伝わるか」を考えやすい。また、手紙は「です」「ます」で書くことが多く、(1)キの「丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使う」「敬体で書かれた文章に慣れる」学習に向いている。書いた手紙を声に出して読み返して直す学習は、B(1)エ「文章を読み返す習慣を付ける」ことの始まりで、第3学年以降の、間違いを正したり相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして文章を整える学習〔第3学年及び第4学年〕B(1)エへ進む。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、何を知らせたいかを先に決め、絵とことばのメモで「いつ・どこで・だれと・なにをした・どう思った」をそろえてから書かせる（B(1)ア）。次に、読み返しは目で見ただけにせず、声に出し、指で押さえながら一文ずつ行わせる。見直す観点はカードにして教室に掲示し、他の単元の書く学習でも使う。そして、手紙を実際に相手に渡し、返事や反応を受け取る場を作る。生活科で関わった人に書く形にすると、他教科等との関連を図れる（第3の1(7)）。清書は、相手の名前・知らせたいこと・自分の名前がそろう、「です・ます」で書けている物を「おおむね満足できる」状況、知らせたいことに自分の思いが書き添えられ、文と文が「それで」「そして」などで続いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○手紙を書いたり、もらったりしたことを話し合う。○学習課題「うれしかったことやたのしかったことを、てがみに書いてしらせよう」を確かめる。 評価：態①（発言）

第2次 第2時：○手紙を送る相手を決め、知らせたいことを選ぶ。○「いつ・どこで・だれと・なにをした・どう思った」を、絵とことばのメモに書く。

第2次 第3時：○手紙の形（はじめに相手の名前、知らせたいこと、さいごに自分の名前）を確かめ、学級みんなと同じ相手に出す手紙を書いてみる。○「です」「ます」で書くと、もらった人がどう感じるかを話し合う。 評価：知①（ノート・発言）

第2次 第4時：○メモを見て、自分の手紙の下書きを書く。 評価：思①（下書き）

第2次 第5時（本時）：○下書きを声に出して読み返し、字の間違い、「は・へ・を」、文と文との続き方、「です・ます」を確かめて直す。○直した手紙を清書する。 評価：思②（下書きの直し・観察）

第3次 第6時：○書いた手紙を友達に読んで聞かせ、知らせたいことが伝わるかを聞き合う。○手紙を相手に渡す。学習を振り返る。 評価：態①（振り返り・観察）

6 本時の指導（5／6）

(1) 本時の目標

書いた手紙を声に出して読み返し、字の間違いや、語と語、文と文との続き方、丁寧な言葉になっているかを確かめて直すことができる。（B(1)エ）

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前の時間に書いた手紙の下書きを出し、だれに、何を知らせる手紙かを確かめる。

2 先生が書いた手紙（間違いの入った物）を、みんなで声に出して読み、おかしい所を見付ける。

○「先生の手紙には、おかしい所があります。どこでしょう」

【めあて】てがみを こえに だして よみかえし、まちがいを なおそう。

予想される児童の反応：・「がっこうえ」になっている。「へ」だと思う。

・まる（。）がない所がある。

・「たのしかった」より「たのしかったです」の方が手紙らしい。

・「ぼくは」が二回続いている、読みにくい。

指導上の留意点：・先生の手紙は、学級の子どもも知っている人にあてて書き、字の間違い、「は・へ・を」、句点の落ち、「です・ます」の混ざり、文の続き方の間違いを入れておく。教科書の作例の文は使わない。

・見付けた間違いは、「じ」「は・へ・を」「と、」「です・ます」「つづきかた」の見直しカードに分けて貼る。

【展開】

学習活動：3 見直しカードを見ながら、自分の下書きを小さな声で読み返す。

○「一文ずつ、指でなぞりながら読みましょう。おかしい所に赤えんぴつで印を付けましょう」

4 印を付けた所を直す。

5 となりの友達と手紙を交換し、声に出して読んでもらう。

○「友達に読んでもらって、読みにくかった所はありましたか」

6 友達に言われた所を確かめて、直す。

予想される児童の反応：・「わたしわ」を「わたしは」に直した。

・まる（。）を付けた。

・「あそんだ」を「あそびました」に直した。

・「それで」を入れたら、続き方がよくなった。

・友達に読んでもらうと、読みにくい所が見付かった。

指導上の留意点：・指で一文ずつ押さえさせ、声に出して読ませる。目で見ただけでは間違いに気付きにくい。

・見直しカードの観点を一つずつ順に確かめさせ、全部を一度に見させない。

・印を付けられない子には、先生と一緒に読み、つかえた所で止まって「ここはどう書くといいかな」と聞く。

・直す時は消しゴムで消さず、赤で書き足させる。どこを直したかが本人にも先生にも見える。

・早く終わった子には、知らせたいことに「どう思ったか」が書いているかを確かめさせる。

・友達に読んでもらう時は、間違いを責める言い方ではなく「ここが読みにくかったよ」と伝える言い方を先に示す。

評価：思② 書いた手紙を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。

（下書きの赤の直し・観察）

【まとめ】

学習活動：7 直した手紙を清書する。

8 振り返りをする。

○「よみかえて、どんなところをなおしましたか」

予想される児童の反応：・「は」と「わ」を直した。

・読み返すと、まちがいが見付かった。

指導上の留意点：・清書が終わらない子は、次の時間の初めに続きを書かせる。

・振り返りは「なおしたところ」に○を付ける形にし、書ける子には一文で書かせる。

・次の時間に手紙を相手に渡すことを伝える。

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて（ひらがな、分かち書き）。その左に先生の手紙（間違い入り）を拡大して貼り、間違いの所に赤で印と直した字を書く。中央に見直しカード（「じ」「は・へ・を」「と、」「です・ます」「つづきかた」）を縦に並べて貼る。その左に、子どもが直した例を二つか三つ書く。左端に振り返りの問い。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

